



155

公益財団法人 すぎのこ芸術文化振興会

2019 7/1

事務局:〒171-0022 東京都豊島区南池袋4-19-6 TEL.03-3984-2396 FAX.03-3984-2264
 映画研修センター:〒350-1315 埼玉県奥州市北入曽695-1 TEL.04-2968-4721 FAX.04-2950-7706
 滝沢研修センター:〒377-1611 群馬県吾妻郡滝沢村千原 TEL.0279-96-1015 FAX.0279-96-1015

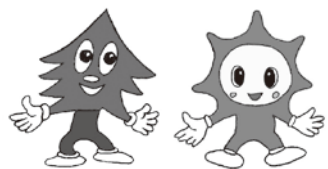
2面・3面 巡回公演だより／園から
 の声・おたより／いけいけ人形劇ま
 つり／人形劇講習会／新天地初&平
 成最後の「春の観劇会」
 4面 日本芸術文化振興会助成事業／
 国立青少年教育振興機構助成事業

http://www.suginoko.org/

E-mail: support@suginoko.org

平成から令和への 未来に生きる子どもたち

理事長 大場 隆志



二〇一九年五月に元号が平成から令和に変わりました。

平成から令和までの日本経済を見ると、世界で成長するグローバル企業が市場の評価を高め、日本企業として三十年間で時価総額をもっとも増やした企業はトヨタ自動車でした。ソフトバンクグループやファーストリテイリングは、トヨタ自動車に次ぐ水準として成長した企業ですが、平成元年には未上場だったためランキング対象外となっていました。

平成から令和までの約三十年間、そして戦後の昭和から平成までの約三十年間における日本企業の成長を比較すると次のようになります。

す。

平成元年の世界時価総額ランキング上位五社は、NTT、住友銀行、日本興業銀行、第一勧業銀行、富士銀行であり、すべてが日本企業でした。

平成三十一年の世界時価総額ランキングは、マイクロソフト、アップル、アマゾン、アルファベット（グーグルの親会社）、フェイスブックであり、すべてがアメリカ企業という結果でした。先ほど紹介しました日本一の時価総額となったトヨタ自動車の世界ランキングは四十二位という結果でした。

平成元年の時代までは、日本は学歴社会で大学進学率が他の国に

比べて高く、学力レベルも高く、

学歴によって就職先や人生が決まるような時代であったと言えます。

しかし、平成の終わり頃の統計を見ると、日本の大学進学率は五十一％程度でOECD（経済協力開発機構）諸国の平均が六十二％。主な先進国の平均が七〇％で、オーストラリアに至っては九十六％ということでした。企業のランキングだけでなく、個人のランキングも世界レベルで落ち込んでいるということになります。

昭和から平成に至るまでの日本が世界で最も輝いていた素晴らしい時代を、令和から次の年号に変わる年までに、超えるためにはど

うしたらいいのでしょうか。

ようちえん情報センター代表の片岡氏の記事によると、AI時代の生き方について、現在の幼稚園児の六割は、今はない職業に就くことになると言っています。そこ

でのキーワードはサイエンス、テクノロジー、エンジニアリング、アートの四つであり、幼児期から鍛えたい力は、①新たな価値を創造する力、②責任のある行動をとり続ける力、③対立やジレンマを克服する力の三つであると。

それこそが、AIが真似できない人間力で、失敗覚悟で、子ども自身が判断し、他人とのコミュニケーションする経験をたくさん積み重ねることが肝心であると説明していました。

そう考えると、今まさに、すぎのこ芸術文化振興会で取り組んでいる「演育」は、これから求められる能力を育成する最適な教育であり、新学習指導要領、小学生から高校生の保護者、日本経団連からも求められている「表現力」と

「コミュニケーション力」を演劇的メソッドを用いて学ぶことができます。

言葉による表現に加え、身体による表現を用いて相互に伝え合うことの喜びに気づき、様々な表現を用いて他者との立場や考えを尊重しながら相互伝達を図ろうとする意欲を持つこと。そして人と違った自由な発想を持つことの大切さを育む「演育」は、これからの教育にはなくてはならないものであると確信しています。

多様な価値観がぶつかり合う時代に、人と異なる視点を持つことの大切さと、相手を理解することの大切さを育み、人間力を高め、一人一人が持つ価値を最大限に発揮できる個性を育む教育を、私たちすぎのこ芸術文化振興会が中心となり取り組んでまいります。

そしてこれからの子どもたちが成長し、日本が世界で最も輝いていた素晴らしい時代を超える日が来ることを願っています。

喜んでいただけますよう励んでまいりますので、よろしくお願いいたします。

三まいのおふだ班

和田 よりこ

今年で「三まいのおふだ」は三年目を迎えました。

初演、昨年と二名の俳優で演じていたものを今回は三名の俳優で演じることになり、今まで以上に観客に楽しんでいただきたいと、演出家と俳優が話し合い、稽古を重ねてきました。

巡回公演だより

このつぎなあに班

横山 美歩

「このつぎなあに」は、いたずらたぬきとひとりぼっちのおじいさんの交流を描いた、ちょっぴり驚きもありつつ優しい気持ちになれる素敵な物語です。小道具によ

る季節の移り変わりから、古き良き日本の姿が細かく描かれています。春先のまだ肌寒い時期、寂しいおじいさんのものに、嵐のようにやってくるおっかない姿のためきのひょうきんさと素直さが、弱り切ったおじいさんの気持ちを明るくしていきます。春から夏へ、夏から秋へ、今度はどんな姿で来るん

だろう？ 子どもたちもそんなおじいさんと一緒に楽しんでもらえたらと思います。

今年度から導入のお話に「うさぎとかめ」が加わりました。緑の野原とお花畑をうさぎとかめが駆け回る、「このつぎなあに」とはまた違う雰囲気を楽しめる物語です。



7月まで北海道を回り、夏休みが明けてからは九州へ向かいます。



そのおかげか、初日から今までの上演は、演技手と観客が一緒に作りあげていく、すぎのこの人形劇らしいものとなっていると感じています。

やまんばが小坊主を追いかける場面では、必死に逃げる小坊主を応援しながらも、「小坊主はどっちに行った？」の問いかけに思わず「あっち！」と答える子どもたち。

水神の龍が現れると目をまん丸にして歓声をあげたり：場面場面の变化を一つ一つ楽しんでくれている子どもたちの息づかいを感じながら、私たちも楽しんでそれぞれの役を演じています。

今年は5月から例年になく暑いです。でもこれから夏本番。夏は元氣いっぱい夏生まれの私ですが、体調管理に気をつけながら、子どもたちの心に響く上演ができるように頑張っていきます。

はだかの王様

班

小杉 正繁

平成から令和元年へ10連休明け新作稽古も無事終えて、「はだか

の王様」はスタートしました。この作品は大人ばかりの登場で、親しみある小動物や園児に近い共感できる同年代が登場しないため、演者としては非常に難しい作品だと感じていましたが、いざ、ふたを明けてみると、王様の服が見えるか見えないか？隣同士で話しかけ合ったりして少しザワザワ感がありますが、よく観て感じてくれているのだなと少しホッとしています。

記録的な暑さが続いた新潟県内ですが、公演移動時間の合間には新潟植物園のシャクナゲ園や北方文化博物館の大藤棚、色鮮やかに咲き乱れる季節の花々を見たりしています。公演先の園児たちも父母から離れ期待や不安の日々の中、友達や先生方と接して色々な体験をし、関わり合いながら人柄が色付きはじめるこの時期、多少なりともお手伝いができたら嬉しいです。



ももたろう

班

星野 翼

「ももたろう」のお話は、日本の子どもたちならみんな知っている



る、とてもなじみ深いお話です。劇団すぎのこの「ももたろう」には、すぎのこが目指す理想の子ども像である、わんぱくで勇気のあつ子どもが主人公として登場します。

こう育って欲しい、こんな子にしたいがとても詰まったお話だと思います。

仲間たちと協力して、一つの大きな目標に向かって進んでいくももたろうは、とても勇敢で、仲間たちもそんなももたろうを見て、一緒に頑張っていく。とても前向きで勇気をくれる、素敵なお話です。

今年で四年目、巡回公演としては最後の年に私たちが演じさせていただくことができました。先輩方が作ってきた「ももたろう」はとても素晴らしく、私にとってはプレッシャーでしたが、今までで一番良い「ももたろう」にしよう、ももたろうたちのように力を合わせて頑張ってきました。

その成果を皆さんにお見せできるのは、とても楽しみです。不安でもあります。若輩ながら切磋琢磨してまいりました「ももたろう」という昔話。観ていただけたら幸いです。

園からの声

ももたろう

■ルンビニ幼稚園（埼玉県川越市）
若い方の活躍ぶりが、とても良かったです。保育の参考にもなりました。

■高田保育園（山梨県西八代郡市川三郷町）
人形の動き、場面変化などがすばらしく、観ていてどうなるのかという思いがわき、引き込まれました。

また、鬼のこわさの中にも、うまくワクワク感のある言葉で恐怖心を減らし、勇気がもらえたことで、子どもたちも安心して観られました。

はだかの王様

■笹口こども園（新潟県新潟市）
はだかの王様を見て、子どもたちは「はだか」「はだか」と合唱していました。「見えない」と言うことでバカと思われたくない大人の浅はかさ比べて、子どもは見たまま、正直ですね。

太ったはだかの王様も、とてもかわいかったです。ピカピカのキンキラキンが好きなのも、大人だけですね。

このこぎなこ

■網走若葉幼稚園（北海道網走市）
今回、鬼が出て来ると事前に教えていただいたり、また明るさの配慮もしていただけたおかげで、園児たちは怖がらず、最後まで楽しんでいました。

「うさぎとかめ」も短いながら、子どもたちが喜ぶような演出もあり、楽しめました。これからも、様々な人形劇が観られるものと嬉しく思います。

■認定こども園北見藤幼稚園（北海道北見市）
子どもたち一人一人がとても嬉しそうに見ている姿や、人形の動きを目で追い、楽しそうに笑ったり、引き込まれている姿が、とても印象的でした。またいつかお会いできる日を楽しみにしています。

三まじのおぶだ

■善教寺保育園（長崎県五島市）
登場人物の紹介があり、事前にやまんばを見ていたので怖がって泣く子どもはいませんでした。内容的に面白く、やまんばが歌を歌ったのは子どもたちに受けていました。絵本通りのお話ではなかったのが楽しめました。保育士たちも大笑いしていました。

■わらべの館（天分県玖珠郡玖珠町）
「童話祭り70周年」に来ていたでいて、ありがとうございます。すぎのこも創設55周年ということで、コラボできたことを嬉しく思います。今後ともよろしくお願いたします。

園からのあたり

北海道標津郡中標津町 計根別幼稚園より

先日とはとても楽しい人形劇を見させていただき、ありがとうございました。子ども達は何日も前から楽しみにしていて、「鬼の話でしょ」「怖い話なのかな〜？」とポスターを見ては心弾ませていました。当日は、お弁当を食べながらも「準備しているね」「大変そうだね」と気にかけてながら、ワクワクドキドキ!! 観に行く本人たちが少し緊張しています。

いざ始まると、いつもと違う雰囲気の中、集中しながらも、イモムシやカメの動きに笑い、「私の知っているウサギとカメの話と少し違う〜」と言いながらも、「楽しかった」の声がたくさん聞かれました。大入道にばけた狸や、段々大きくなっていくおにぎり…等みんな興味津々。横で見ている私から見てもみんなの目はキラキラ輝いていました。

次の日「楽しかったからお礼のお手紙書こうか？」の声に「いいね〜また来てねって書きたい」「あれは誰が作っているのかな〜」「後ろの絵も上手だった」と人形だけでなく、全体も見て、考えていたことに、子どもって意外と色々なことに気が付くんだと改めて感じました。

そして、そんな子ども達の良さや、人形劇の良さをこれからの保育にも生かしていきたいと考えています。目で見、耳で聞いて、心で感じる。そんな素敵な時間を過ごさせていただきありがとうございました。また来年を楽しみにしつつ、お礼の手紙とさせていただきます。



中標津町立計根別幼稚園
園長 三宅 光恵

いけいけ人形劇まつり

前夜祭「ねずみの嫁入り」

「劇団すぎのこです。よろしくお願いします」うわずった自分の声が会場に響く。そんな私の緊張をほぐしたのは、観客の方々の笑い声でした。

毎年5月4日は「池袋いけいけ人形劇まつり」が開催されます。すぎのこが毎年参加させていただいているイベントで、今回は特別企画として前日3日に初めて前夜祭が行われました。韓国民話の語りや、中国の影絵といった他国の文化を交えたプログラムが組まれ、私は、日本の昔話「ねずみの嫁入り」で出演しました。

すぎのこはまもなく55周年を迎えますが、「ねずみの嫁入り」は、すぎのこの人形劇の中でも歴史が長く、今でも関東を中心に子どもたちに届けられています。

当日「はだかの王様」

令和になって最初のゴールデンウィークは、皆様、存分に楽しめましたか？ 私たちは毎年参加している「いけいけ人形劇まつりin大塚」に「はだかの王様」の作品で参加してきました。

少し雨がぱらつく瞬間もありましたが、プロもアマチュアも一緒になっての人形劇まつりは、今年も大盛況！ 年齢も性別もばらばらで、様々な演目が催さ

す。しかし、保育園・幼稚園で上演する際、集中して見てもらえるものの、子どもたちの反応に手応えが少なく、いつもこれでもいいのかと物足りなさを感じていました。シンプルで分かりやすく、繰り返し観る動きが多いからこそ人形劇としての見せ方が難しく、私にとって苦手意識のある作品でした。楽しんでもらえるだろうか。そんな不安を抱きながらも、いざステージに出ると、温かい拍手、劇中の思わぬ笑い声。観てくださった方々の楽しんでいる空気感が伝わり、それを受けて自分が伸び伸びと演じられているのを感じました。

なによりハッと気付かされたのは、観客がいて、初めて劇が完成するということ。本番では、不思議と自分にも予測できないパワーが出て、その場の一度きりの演技ができました。私

れましたが、どこの部屋をのぞいても共通していたのは、常に子どもたちの満面の笑みで溢れていたこと！

人形劇や生の舞台の良いところは、観客と一体になって作品を作っていくことができること。それは、巡回公演で毎回子どもたちと一緒に舞台を作っている私たちが、とても大切にしていることです。難しくて大変で、とっても楽しい人形劇の世界。たくさんの方々と話もできて、充実した時間を過ごす

たちの出番の前に韓国民話を話

されていた方が、「何の民話を話すかは、観客を見てからその場で決めている」と言うのを聞いて、ああそうか、と何かが腑に落ちました。

私たちの仕事は、見てくれる人がいて初めて成り立つ。自分があるこれ考えて演じることで、その場面が引き立つこともあるけれど、結局は観客がどう感じるかという結果に勝るものはない。計算された演技より、その場の空気を感じて演じる。それをまた観ている人が感じる。こうした見えないキャッチボールによって、みんなで作っていくものなのだ。それを改めて強く感じさせてくれたのは、前夜祭にお越しいただいた皆様と一緒に築いた、ただただ温かいステージでした。

(長谷川 唯)

ことができました。

(吉田 薫)



人形劇講習会

5月17日、福岡市みどりがおか幼稚園で、人形操作講習会を行いました。

長年講習を続け、各々の先生方

個人のオリジナル人形があるほど、熱心な幼稚園です。

質問も積極的に出され、実演も楽しく行われていました。園児に

伝える想いは確かで、その熱意が伝わってきました。

ただ、人形の動かし過ぎはちょっと気になりましたので、余計に動くのを止め、ポイントとなるしぐさをしっかり見せるよう、動きを整理するよう伝えました。

自分自身、現在の「三まいのおふだ」の和尚役において、改めて人形操作を整理してみました。元々頭では理解していたことを、人に伝えるために言葉にする。教えるだけでなく、己れの学びとなりました。

(野見山 大輔)



新天地初&平成最後の「春の観劇会」

2019年春の観劇会は、とても感慨深いものでした。研修センター移転後初めてとなる観劇会であると同時に、平成最後

の観劇会でもありました。移転で遠くなり残念ながら来られなかった方もいましたが、移転を機に今回初めて来ていただいた方も多く、正に一期一会、平成と令和の狭間で出会いと別れを感じずにはいられませんでした。

そのほかにも、「新天地をのぞいてやろう」と思ったかどうかはわかりませんが、たくさんの方の差し入れと共に久しぶりに顔を出してくれた懐かしいOB・OGの方たちの姿もあり、「新しい環境でもがんばってね」との言葉に、とてもうれしい気持ちでいっぱいになりました。

新元号と共に始まった新天地での活動もまだまだ始まったばかりです。今回は皆様をお迎えするにあたって、劇場の環境作りや、「さんびきのやぎ」「うさぎとかめ」の小作品作りなど、劇団員による手作業の連続でしたが、みんなで力を合わせることの大切さを改めて感じさせられました。これから人と人との繋がりを大切にしながら、「和」の志で令和の新時代の子どもたちに夢と希望を届けていきたいと思っています。

(白石 高章)



独立行政法人 日本芸術文化振興会
助成事業



【完了報告】

日本芸術文化振興会の芸術文化振興基金による助成事業、平成30年度「このつぎなあに」全国巡回公演を完了いたしました。

本作は山中恒さん原作の「このつぎなあに」(あかね書房刊)を人形劇化した作品で、すぎのこの初演は昭和54年でした。初演より約40年後の再演となった今回は、台本や人形・舞台美術をリメイクし、より芸術性を追求した、多くの人々が感動できる舞台づくりに努めました。

助成事業実施期間のうち、155日間で263公演を行いました。助成事業実施日数及び公演数の詳細は以下の通りです。日本芸術文化振興会のご支援に厚く御礼申し上げます。

巡回公演		回数	日数	
東京都	1	1	1	1
鳥取県	4	14	4	14
島根県	14	23	14	23
岡山県	10	15	10	15
広島県	24	41	24	41
山口県	18	29	18	29
徳島県	8	12	8	12
香川県	8	17	8	17
愛媛県	10	17	10	17
高知県	20	36	20	36
福岡県	12	22	12	22
佐賀県	7	10	7	10
長崎県	7	9	7	9
大分県	6	8	6	8
宮崎県	1	1	1	1
鹿児島県	5	8	5	8
計	155	263	155	263

なお、「このつぎなあに」は今後も全国を巡回いたしますので、どうぞよろしく願っています。

【内定報告】「はだかの王様」助成金交付決定

昨年度の「このつぎなあに」に引き続き、今年度の新作「はだかの王様」全国巡回公演が「平成31年度芸術文化振興基金」の助成対象事業として採択されました。

「どのこにもナマの舞台の感動を」という、すぎのこの理念にご賛同いただけることに心より感謝申し上げます。

今回も全国津々浦々の子どもたちに感動を届けられるように、より一層の精進を重ねていく所存です。

今年度は北陸地方を皮切りに、



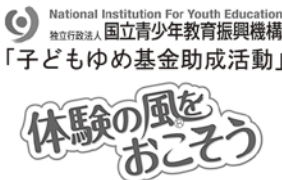
東北地方、近畿地方を中心に巡回いたします。この物語を通して、自分の考えを持ち、相手に伝えることの大切さを多くの子どもたちに感じて欲しいと願っています。

小規模園や山間へき地の園でも、可能な限りおうかがいさせていただきます。ぜひこの機会にご相談ください。

評議員・理事・監事
紹介
第3期評議員、第5期理事、第3期監事が就任致しました。

独立行政法人
国立青少年教育振興機構
令和元年度子どもゆめ基金
助成金交付決定

「昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」開催につきまして



この度、「昔話読み聞かせ・人形劇フェスティバル」開催が、独立行政法人国立青少年教育振興機構「子どもゆめ基金」助成対象の活動として採択されました。

現在は、パソコンやタブレット、スマートフォン等の普及で娯楽が増え、子どもたちの本離れが進んでいます。読み聞かせをした本を題材とした人形劇を観劇することで、より昔話の世界へ入り込んでもらいたいという思いで、開催を決定いたしました。

子どもたちの楽しい夏の思い出となるよう、劇団員一同、全力を

独立行政法人国立青少年教育振興機構様のご支援に、心より御礼申し上げます。

個人的には、どのお話も大好きなので、子どもたちにはたくさんのお話に触れてもらえたらいいなと思っています。すぎのこの人形劇が、お話に興味を持つきっかけになることを心から願っています。

げます。



すぎのこは、この夏で55周年を迎えます。

子どもたちに生の舞台を届けるため、ご尽力いただいた先生方、保護者の皆様、役場のご担当者様、スタッフの皆様は厚く御礼申し上げます。

今までも、多分これからも、毎年頭を悩ませるのが、新作についてです。どんな作品を届けたいのか。子どもたちが楽しめるのはどんなものか。今、どんなお話が求められているのか。考え出すと、キリがありません。

日本の昔話一つをとっても、勧善懲悪、冒険もの、人情もの、ほのぼのした話、残酷なもの、めで

活動記録(令和元年5月～6月)

5/4

池袋いけいけ人形劇まつり
参加 於・南大塚地域文化
創造館(東京都豊島区)

5/5

第一期全国巡回公演開始
第16回定例理事会開催
於・当公益財団事務所

5/13

人形劇講習会開催
於・みどりがおか幼稚園
(福岡県福岡市)

5/17

第8回定例評議員会開催
於・当公益財団事務所

5/31

第8回臨時理事会開催
於・当公益財団事務所

6/7

人形劇講習会開催
於・三春幼保園(福島県田
村郡三春町)

6/28

平成30年度事業報告及び収
支決算報告を内閣府に提出

新人紹介

湯浅 香織

初めまして。実は昨年、少しかだけ「ももたろう」に客演で参加し、今年の4月から劇団員として加わりました。

元々ミュージカルの劇団に四年ほど所属していて、ミュージカルや影絵等に携わってました。人形劇は初めてで、基本の基から日々学びの連続です。人形の扱いは想像以上に奥深く難しく、手先の器用さには少し自信があった私ですが、そう簡単にはいかず、苦戦しています。どうぞ温かい目で見守っていただければ幸いです。